
詩紡ぎ

律森ちるは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩紡ぎ

【Nコード】

N1768Q

【作者名】

律森ちるは

【あらすじ】

詩集です。気まぐれに紡いだ詩などを載せています。思いついたら増えるので、連載、とさせて頂いています。

シアワセ

いつか どんなに寄りそいながら歩いても
別れは必ず来るなんて そんな言葉は聴きたくない
知っていればどうにかできる？ そんなわけないのだから

それならせめて そんなことを忘れて
どうか今だけでも なにも知らぬままの無垢なぼくたちで
そう ただ傍にいて ただこの時間を共有して
ずっと一緒にいようなんて 言葉を

微笑みながら交わせる そんな 些細な時間を
今だけでいいから 大切にさせてほしいと願う

嗚呼

どうして こんなにも こんなにも 切ないのだろう
こんなにも こんなにも 苦しいのだろう

愛おしいほど 倖せな時間のはずなのに

ハジマリ

たとえばきみが この海の向こうを越えるというのなら
それならばくは その反対の陸へと行こう

陸の上に広がる空は きみが向かう海の空と交じり
その境界線をこえ いつか想いが交じるように
たとえそれぞれの道を歩んだとしても ぼくらは繋がっている
この手を離して その指先に触れられなくとも ぼくらは

だから 振り向かずにはくは行こう
きみも振り向かずに行くだろうから
そしていつか出逢えるときまで 歩き続けよう

ぼくたちが邂逅を交わすとき
そこに生まれるのは 新たな世界のはじまり

ハルカ。

いまきみがひとつの空を見上げている

その空は僕が見ている空と同じなのだろう

繋がった遙かはるか遠く高い空の下で 僕ときみは

ただひとつのことを願いながら きつと今日を生きている

それぞれの道を歩きながら 僕らは長い旅をする

終わりは見えない 終わりはないのかもしれない

ただ歩き続けて夢を追う それがきみと僕とのただひとつの約束

繋がった遙かなる空の下で 今日も明日も流れる雲に思いを馳せて

僕は追い続け きみもきつと歩き続けるだろう

いつかまた会えた日に 最高の笑顔を交わすため

いま僕が冷たい雨にうたれている

この雨にきみもうたれているのだろうか

この暗く冷たい空からこぼれおちる雫は きみと僕の

進みたくても進めないもどかしさを きつとあらわしている

それぞれの道は険しくて それでも僕らは旅をする

終わりは果てない 終わりはないのかもしれない

歩き続けることに疲れて それでもただひとつの約束を守るため

繋がった遙かなる空の下で 今日も明日も吹く風に思いを乗せて

きみは進み続け 僕もきつと求め続けるだろう

いつかまた会えた日に 最高の笑顔を交わすため

繋がった遙かはるか遠く高い空の下で 僕ときみは
ただひとつの想いを抱きながら きつと明日を生きていく

その手、は

夜を怖れるのは 闇に呑み込まれそうになるから

夜を怖れるのは ちっぽけな自分ひとりしかわからないから

なにもできない暗闇の中で もがいて もがいて もがいて

足掻いて 足掻いて 足掻いて

朝を迎えられたとき

それはどんな光よりも輝いてみえた

でも

怖れていた 夜の暗闇の中で

震えていることしかできなかった その中で

ふ と浮かんだ 暖かいオレンジ色の光のような

きみが差し伸べてくれたその手は

どんな朝の光よりも 輝いていた

どんな光よりも あたたかくて やさしかったんだ

ひえたことは

冷たい雨にうたれておもう 頬に伝うこのあたたかさはなんだろう
ぼくはこんなにも無力で ちっぽけで
こんな言い方はどこにでもありそうで でもそうとしか言えない
ぼくの言葉は刃物のようで 鋭く誰かを傷つける
冷たい雨にうたれておもう このつめたさはきつとぼく自身だと
冷えていく身体に ただただ温かい ぼくから溢れる熱

ぼくの体温で温められた ぼくの頬を伝うモノ
温かいのに すぐに冷えて 雨にまじる
すぐに消えていくぬくもりは
ことばという刃物をむき出しにしたぼく自身のようだ
一度外に出せば 二度と戻ることのない諸刃の剣

雨に流れてしまえばいいと思う これもどこかで聞いたことば
そんなこと
できるはずがないのに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1768q/>

詩紡ぎ

2011年1月18日20時41分発行